

大学生は就職する会社に何を求めるのか

研究代表者：河合 柚音

共同研究者：西 奈央圭・篠原 瑞貴・白岡 美奈

1. はじめに

現代における就職活動の状況は、有効求人倍率は令和元年5月時点で1.62倍と非常に高く、売り手市場となっている。だが、就職後3年以内の離職率も高く、厚生労働省（2018）によると、どの産業分類においても3年以内の離職率は10%を超過しており、30%以上という産業も見られる。そのような現状に対して、大学生の職業志向性についての尾形（2011）の研究がある。その研究は、大学生の約4割が就職先が決まらずに大学を卒業するという大卒新卒者内定率が過去最低を更新した2010年当時の大学生を対象にしたものである。また、当時は「ミスマッチ採用」という言葉が頻繁に用いられ、尾形（2011）は学生と企業間のミスマッチを重大な問題と捉えており、この問題は売り手市場である現在でも生じていると考えられる。そこで我々は、大学生が就職する企業に何を求めているのかを調査し、身近な奈良県立大学生の志向を分析した。

2. 調査方法

分析の方法として、現代の大学生が就職する会社に何を求めるのか明らかにするため、研究の趣旨を説明し同意を得られた大学生211名¹から回答を得た。ここから未記入項目のあるアンケートを除外し、最終的に201名の有効回答が得られた。調査期間は2019年11月から12月の間に実施した。質問項目は先行研究の尾形（2011）を元とし、就活サイト²などを参考に質問票を作成した（巻末参考資料参照）。

3. 分析結果

奈良県立大学生の志向を分析するため、奈良県立大学生と、その他文系大学生に分けて有意差が生じるかt検定による検討をおこなった（表1）。

奈良県立大学の学生は文系の学生であると仮定し、本稿では、理系学生の影響を除外し、文系学生のみを分析対象としている。奈良県立大学生41名とその他文系大学学生94名の計135名を分析し、その結果、以下の項目で有意差がみられた。

- 12. 高い給与やボーナス（ $t=2.914$, $df=133$, $p<.01$ ）
- 16. 福利厚生（ $t=2.294$, $df=133$, $p<.05$ ）
- 21. 自分の夢実現のためとなる環境（ $t=2.936$, $df=133$, $p<.01$ ）
- 24. 会社の行事参加を強制されない環境（ $t=2.327$, $df=133$, $p<.05$ ）

表1 奈良県立大学生とその他大学生との比較

質問項目	奈良県立大学生		その他大学生(文系)		t値	有意確率
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
1	2.78	1.061	3.14	1.197	1.652	0.101
2	2.2	0.901	2.48	1.124	1.427	0.156
3	2.93	1.058	3.24	1.198	1.467	0.145
4	2.39	0.802	2.65	0.991	1.473	0.143
5	3.02	1.012	3.06	1.234	0.18	0.858
6	2.56	1.119	2.87	1.175	1.436	0.153
7	2.8	1.145	3.2	1.132	1.869	0.064
8	4.29	0.929	4.34	1.001	0.26	0.795
9	4.24	0.943	4.29	0.935	0.247	0.805
10	4.34	0.938	4.48	0.852	0.835	0.405
11	3.9	1.2	4.1	1.098	0.914	0.362
12	3.54	1.142	4.11	1	2.914	0.004 **
13	3.83	0.972	3.97	0.933	0.785	0.434
14	4	1.025	4.05	0.999	0.282	0.778
15	3.71	1.006	3.8	0.979	0.49	0.625
16	3.78	1.061	4.21	0.982	2.294	0.023 *
17	3.05	1.161	3.41	1.13	1.717	0.088
18	4.02	1.151	4.34	0.837	1.585	0.118
19	4.17	0.998	4.35	0.826	1.094	0.276
20	3.56	1.097	3.85	1.047	1.459	0.147
21	3	1.162	3.59	1.02	2.936	0.004 **
22	1.83	1.07	2.29	1.309	1.971	0.051
23	3.54	1.185	3.87	0.975	1.72	0.088
24	3.41	1.183	3.89	1.062	2.327	0.021 *
25	2.24	1.3	2.77	1.462	1.971	0.051
26	2.73	1.397	2.88	1.359	0.59	0.556
27	3.83	1.16	3.47	1.381	1.464	0.146
28	2.24	1.374	2.56	1.38	1.24	0.217
29	2.05	1.264	2.48	1.293	1.789	0.076
30	2.1	1.3	2.55	1.333	1.84	0.068
31	3.61	0.945	3.82	1.077	1.076	0.284
32	3.9	1.2	4.14	1.022	1.168	0.245
33	4.2	0.813	4.31	0.817	0.743	0.459
34	3.76	0.943	4.1	1.038	1.797	0.075

*p<.05 **p<.01

有意差がみられた上記すべての項目において、その他文系大学生より平均値が低い結果となった。また、34の質問項目すべてにおいて奈良県立大学生はその他文系大学生に比べ平均値の高いものは見られなかった。

4. 考察

その他文系大学生に比べ値の高い項目が見られなかったことから、奈良県立大学生は企業に高いレベルを求めない謙虚な傾向があると読み取れる。質問項目12.16.21など企業に充実を望むであろうと考えた項目においても平均値より低い結果が出た。よって、奈良県立大学生は良くも悪くも受け身であると考えられる。ゆえに、企業に対し過度な期待がなく、多くを望んでいない奈良県立大学生においては、企業とのミスマッチはあまり生じていないのではないかと考えられる。

なお、今回の調査では友人などを通じデータの収集を行ったため、データの偏りが出たことも考えられる。特に24においては調査対象に委員会や部活動に参加している学生が多くいたため、行事に積極的に取り組む姿勢が出たのではないかと考えられる。

脚注

¹ 内訳は男子学生80名と女子学生128名、文系学生135名と理系学生75名、1年生44名、2年生74名、3年生57名、4年生18名、それ以上15名となっている。

² 就活サイトに関しては下記ウェブサイトを参考にしている。

マイナビウェブサイト「2019年卒マイナビ企業新卒内定状況調査」

(http://mcs.mynavi.jp/enq/naitei/data/naitei_2019_r.pdf)

(最終アクセス2020年1月30日)

三菱UFJリサーチ&コンサルティングウェブサイト「2019(平成31/令和元)年度新入社員意識調査アンケート結果 ～「多様性」を大切にする令和の新社員たち～」

(https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2019/05/report_190517.pdf)

(最終アクセス2020年1月30日)

参考文献

尾形真実哉(2011)「大学生の職業志向性に関する実証研究：就職活動中の大学生に対するアンケート調査から」『甲南経営研究』第52巻、第2号、pp.51-81。

厚生労働省(2018)「新規学卒者の産業別離職状況」

(<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137940.html>)

(最終アクセス2020年1月30日)

参考資料 質問票

<p>【リード文】 あなたが就きたいと望んでいる職業には、次のような条件がどの程度、備わっている必要がありますか。</p> <p>【選択肢】</p> <p>①あまりなくてもよい ②多少はあってほしい ③普通にあってほしい ④普通以上にあってほしい ⑤非常にあってほしい</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の能力が試される機会 2. 困難な仕事に挑戦する機会 3. キャリアアップできる機会 4. 仕事上での責任の重さ 5. 仕事が自由に任される機会 6. 仕事の専門性 7. 実力本位・能力本位の処遇や報酬 8. 職場の先輩社員との良き人間関係 9. 上司との良き人間関係 10. 同期との良き人間関係 11. アットホームな職場の雰囲気 12. 高い給与やボーナス 13. 休日の数 14. 勤務時間の適正さ 15. 通勤の便利さ 16. 福利厚生 17. 会社の世間での評判 18. 楽しく働ける環境 19. 仕事と私生活の両立ができる環境 20. 人の役に立つ仕事 21. 自分の夢実現のためとなる環境 22. 副業・兼業ができる機会 23. 私生活に干渉されない環境 24. 会社の行事参加を強制されない環境 25. 在宅勤務ができる環境 26. 出身地と職場が近いこと 27. 転勤が少ないこと 28. 職場が実家から通えること 29. 大手企業であること 30. 有名企業である 31. 企業の将来性 32. 育児休暇がとりやすい環境 33. 有給休暇がとりやすい環境 34. 男女の雇用機会が均等である
---	--